

区民と創る台東区の男女平等参画のための情報誌

はばたき21

通信

2018・8

No.36

特集

つくられた
イメージを超えて

●特集1

西洋音楽史の中の女性たち

- ・ 知られざる女性作曲家とその時代
- ・ 女性作曲家に賭ける私の夢

小林 緑さん(国立音楽大学名誉教授)

- ・ 2018男女平等推進フォーラム講演会

●特集2

DV まだ「家庭内の問題」だと思っていますか？

- ◆ はばたき21相談室のご案内
- ◆ はばたき21情報コーナーおすすめ図書案内
- ◆ たいとうのキラッとさん紹介
- ◆ 台東区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業紹介

西洋音楽史の中の女性たち

今年9月に開催する男女平等推進フォーラムでは、『心揺さぶる珠玉の音色—知られざる女性作曲家の世界—』と題した講演とコンサートをお贈りします。

そこで今回は、当日のお話と演奏をより深く感じていただくために、前半は西洋音楽史の中の女性たちがどのような時代背景のもとで音楽に携わっていたのかを取り上げ、後半は講演会講師である小林緑さんの女性作曲家に対する想いをお伝えします。

作曲家は男性だけ？

西洋音楽史は、その時代や音楽様式によっていくつかに分類されており、1750年頃〜1827年を古典派音楽、1827年から1920年頃までをロマン派音楽と呼んでいます。代表的な作曲家として古典派では、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど。ロマン派では、ショパン、ワーグナー、チャイコフスキーなどがあり、馴染みある曲の作曲家としてご存知の方も多いと思います。



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827年)

市民階級に生じた「男は外、女は内」という考え

の祈り」。この曲の作曲者が女性だということをご存知でしたか（テクラ・バダジェフスカ 1834-1861）。クラシック音楽というと、「作曲家すなわち男性」というイメージを抱きがちですが、実は個性豊かな作品を残した女性たちが大勢いたのです。彼女たちはどんな時代に、どのように音楽と向き合っていたのでしょうか。19世紀のドイツを例にみてみましょう。

18世紀末から19世紀にかけてのドイツでは、貴族でも農民でもない、さまざまな人々が市民階級に含まれるようになりました。その典型的な職業は、商人、実業家、手工業者、官吏、医者、弁護士、大学教授、聖職者、ジャーナリストなどで、おおむね都市に住み、教養を身につけ、職業活動を通じて金銭を得ているといった共通点があります。

このような生活スタイルの家族



『ピアノに寄る少女たち』1892年製作
ピエール＝オーギュスト・ルノワールの絵画

市民階級の女性たちの音楽実践の場

こうした市民階級にとって、音

にとつて、仕事と家事・子育てを誰が担うのかという問題の最も合理的な解決法と考えられたのが、夫は外で働き家族を養えるだけの稼ぎを得て、妻は夫を支えるべく家庭を守るというものでした。当時存在した、女性の身分は「妻、主婦、母」にあるとした女性像は、この「男は外、女は内」という考え方に基づいており、それは工業化の進展にともなう合理化によって形成された分業構造が、工業化社会の重要な担い手である都市の小家族のなかにまで浸透した結果生じた性別役割分担だったのです。



ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル (1805~1847年)

女性職業音楽家の誕生

家庭を守ることが期待され、そこを飛び出して職業活動を行うことを強く戒められていた市民階級の女性たち。その中で、境界を飛び越え、公開の舞台に立ち、その報酬で自身と家族の生活を支える、まさに音楽を職業にした女性たちもいたのです。そんな職業音楽家として活躍した女性の代表格が、クララ・ヴィーク・シューマンでしょう。

クララは、父から英才教育を受け、天才少女ピアニストとして活躍し、音楽家のロベルト・シューマンとの結婚後も家庭を切り盛りし、多くの子供を産み育て、病気の夫を支えながら、ピアニストとして国内外を問わず活発な演奏活動を続けました。

楽器と女性

18世紀半ばから19世紀にかけて、女性は職業音楽家になることを強く戒められただけでなく、弦楽器や管楽器を演奏すること自体がタブーとされていました。

その理由にあげられるのが、男性が女性を見るまなざしで、例えば、チェロを演奏する女性の姿勢（本体下部を両足ではさみ、上部から棹にかけての部分の胸から肩にもたせかける）が、男性の欲望を刺激するというのです。また、楽器の響きが引き起こす連想（トラン

ペットの響きは戦場を、ホルンは狩猟を連想させる）が女性の特性に反するので、管楽器も女性の楽器ではないとされました。

では、女性に最もふさわしい楽器とされたのは何か。それがピアノです。ピアノは、楽器と身体が接触する部分が最も少なく、最も身体を動かさずに演奏可能であり、優美な横顔を見せることができる。また、持ち運びできないので女性を家庭に囲い込むことが可能であり、一人で楽しむことができる…。こうしてピアノは、家庭で音楽をたしなむ女性の楽器になったばかりでなく、音楽を職業とする女性の大半が演奏する楽器となりました。

『クラシック音楽と女性たち』より



楽が教養形成の不可欠な要素とされ、その階層の女性たちも、ある程度ピアノが弾けて歌が歌えることが必須条件となりました。しかし、女性が音楽の素養を身につける目的は、あくまでも教養の獲得と家庭生活を楽しく彩るため。限度を超えてはならず、公の場で活躍することは女性の本分に反するとされていたのです。

そのような中、既婚女性でも無報酬ならば舞台上立つことが許されたので、彼女たちはしばしば家庭音楽会やサロン・コンサート、慈善演奏会などに出演し、各都市の音楽生活を豊かなものにしていました。そうした女性たちの傑出した例といわれるのが、ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル。ロマン派の作曲家フェリックス・メンデルスゾーンの姉である彼女は、卓越したピアノ演奏だけでなく、600曲近い作品を書いたとされています。

ファニーは才能発揮の場を私邸での音楽サロンに限ったのですが、このサロンこそ、教会、オペラの舞台、コンサート会場など男性支配が際立つ19世紀の音楽シーンと比べ、女性の主導による例外的文化空間としての重要性を持っていた。

実はクララは、ピアニストのみならず作曲家でもあったのです。しかし、ある時期から、作曲を事実上断念してしまいました。もとも自分の作曲の才能に自信が持てなかったようですが、夫シューマンによって代表されるロマン派的音楽観を、クララ自身が次第に受け入れていったことが関係しているのではないかとわれています。

クララがキャリアを開始した当時は、華やかに技巧を競い合うような音楽が理想とされる時代でした。やがてその流行は去り、新しいロマン派の音楽観では、音楽を高邁な精神の産物とすることで演奏と作曲の分離がもたらされ、精神にかかわる創造的な作曲家は男性、それを再現する演奏家は女性（男性演奏家もたくさんいました）という役割分担が生じていた



クララ・ヴィーク＝シューマン
(1819～1896年)

たのです。クララが自作のピアノ協奏曲をコンサートで演奏した際、作品のできばえを認めたにもかかわらず、女性の作品だからまともに取り上げるに値しないとする批評家もいました。

作曲活動に終止符を打った後、クララは夫の作曲した作品を広めるという使命感のもと、演奏活動を活発化します。そうして、「クララ・シューマンの夫」と呼ばれたローベルトの作曲家としての名声が確立され、今度はクララのほうが「ローベルト・シューマンの妻」と言われるようになったのです。

埋もれた女性作曲家たちに光をあてて



ルイズ・ファランク
(1804～1875年)

有名男性作曲家の親族として知名度の高いファニーやクララを生

んだドイツの他にも、フランスのルイズ・ファランク、ポリーナ・ガルシア＝ヴィアルドなど、作曲する女性たちは大勢存在しました。では、なぜ彼女たちは音楽史の中に埋もれてしまったのでしょうか。その理由の一つとして、近代の芸術家像と音楽史の叙述が、女性を排除する男性中心主義に偏っていたからということがあげられています。

作曲という行為には、創造性、独創性、想像力といった要素、言い換えれば天才が必要とされるが、そのように神格化した天才は男性の属性であり、どこまでも生物学的に男性であって、女性の天才などありえない。こうした西洋文化史のレトリックが、女性の創造性を否認してきました。特に19世紀には、天才の姿が、エリートに評価される芸術作品と、大衆に人気のある消費のための作品とを区別する指標となり、高級文化が男性文化として、大衆文化が女性文化として思い描かれました。そのような思潮の中で、高級文化の象徴的存在が作曲家だとすれば、それが女性であるはずがないというわけです。

また、音楽史研究までもが著しく男性中心の分野で、研究者たち



ポリーナ・ガルシア＝ヴィアルド
(1821～1910年)

こうしたさまざまな偏見や制約のあった社会の中で、それでも情熱を持って音楽に取り組んでいた女性たち。彼女たちがその想いをどのように楽の音として紡いだのか、実際の作品に触れていただきたいと思っています。

参考文献

『クラシック音楽と女性たち』
玉川裕子編著／青弓社（2015）
『女性作曲家列伝』
小林緑編著／平凡社（1999）
『表現する女たち』
三木草子、レベッカ・ジェニスン編／第三書館（2009）

女性作曲家に賭ける私の夢

小林 緑さん

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院修了。
フランス政府給費留学生としてパリ第四大学留学。
現在国立音楽大学名誉教授。



り組み入れました。

演奏はもちろんのこと、音楽創造力に男女の優劣はないにも関わらず、日本の西洋クラシック音楽界で演奏されるのは一握りの男性作曲家の曲ばかりです。知らない曲を聞かせてその作曲者の性別を判別させようとしても全くわかりません。つまり音楽の創作力に性差などないことは、授業その他で確

認済みです。

「男に養ってもらったために教育したんじゃない、結婚なんか絶対にするな」娘4人に真顔で叫んだ父：私のすべての原点です。明治35年生まれの父がこの「暴言」を吐いたのは末っ子の私が高校生の頃でした。たった一人の息子にはほとんど興味なく、娘たちに音楽教育を施すのに必死でした。母もまた娘たちの自立路線には全面的に協力し、おかげで我が家では結婚や見合い話は一切出ませんでした。

私が女性作曲家に開眼したのは、クラシック・レコード編成者（現評論家）の夫が買い集めてくるレコードがきっかけでした。その中に多数の女性作品を見つけ、はるかに知名度の高い男性たちの作品と比べても、全く同等のすばらしいものであることを確信したのです。以降、「女性と音楽」をライフワークと定め、研究にも授業にもできる限

2018男女平等推進フォーラム 9/29(土) ▶ 30(日)

講演会

心揺さぶる珠玉の音色—知られざる女性作曲家の世界—

日時：9月30日(日) 入場無料
午後2時開演 午後1時30分開場
会場：ミレニアムホール(生涯学習センター2階)
講師：小林 緑さん(国立音楽大学名誉教授)
演奏者



ピアノ
佐野 隆哉さん



ヴァイオリン
佐藤 久成さん



チェロ
江口 心一さん

ワークショップ 作品展示

29日(土) 午前10時～午後4時／30日(日) 午前9時30分～12時
場所：男女平等推進プラザ「はばたき21」
(生涯学習センター4階)

「はばたき21相談室」のご案内



こころと生きかたなんでも相談

職場・家族・近所など、身近な人間関係のことや、こころのモヤモヤ、イライラなど…ひとりで抱え込まずにご相談ください。女性フェミニスト心理カウンセラーが相談に応じます。

毎週

火曜日・土曜日 午前10時～午後4時まで

水曜日・木曜日 午後5時～9時まで

面接相談（女性のみ）

電話相談（どなたでも）

※火曜日・土曜日は、託児（1歳以上の未就学児）あり（相談日の1週間前までに要予約）



女性弁護士による法律相談

結婚や離婚、相続のことなど、法律のことについて、女性の弁護士が相談に応じます。

問題が整理できずに迷っているときは「こころと生きかたなんでも相談」で気持ちを整理してから、法律相談を利用することもできます。

毎月

第2水曜日 午後1時～4時まで

第3木曜日 午前10時～午後1時まで

第4火曜日 午後4時～7時まで

面接相談（女性のみ）

※毎月1日から予約受付開始



相談時間：1回50分

場所：男女平等推進プラザ「はばたき21相談室」（生涯学習センター4階）

予約方法：電話で予約【予約専用電話：03-5246-5819】

受付時間：午前9時～午後5時まで（日・休館日を除く）

休館日：第1・第3・第5月曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始

はばたき21情報コーナーおすすめ図書案内

情報コーナーでは、男女平等に関する図書や資料の貸出しを行っています。借りるときには、台東区立図書館の利用カードをお持ちください。自由に閲覧できるスペースもあります。

『パワハラ セクハラ マタハラ相談はこうして話を聴くーこじらせない！職場ハラスメントの対処法』



野原蓉子著 経団連出版

ハラスメントに対する基本的な知識から、相談されたときの初動対応までを、成功例、失敗例、改善例を交えてわかりやすく紹介。

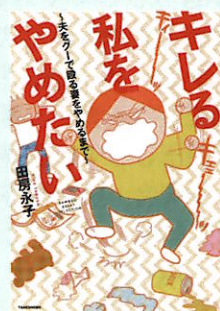
『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア 自分を愛する力を取り戻す「心理教育」の本』



白川美也子著 アスク・ヒューマン・ケア

トラウマはなぜ苦しみを引き起こす？赤ずきんとオオカミによる物語仕立てで、トラウマ記憶のしくみ、回復のプロセス、さまざまなアプローチ方法を解説。

『キレる私をやめたい ～夫をグーで殴る妻をやめるまで』



田房永子著 竹書房

夫に暴力をふるう度に傷つき、悩んでいた著者が、キレてしまう自分に対して真剣に取り組む、明日からキレなくなる、即戦力のある本を目指したコミックエッセイ。

DV まだ「家庭内の問題」だと思っていますか？

「DV（ドメスティック・バイオレンス）は、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）人からの暴力である」ということはかなり知られてきたものの「家庭内の問題」「個人的な問題」「一部の人の問題」として片づけられてしまいがちです。

しかし、DV 被害者は多くの場合女性であり、その背景には、「男性がリードし、女性は従うもの」「女性の役目は男性を支えること」といった固定的な性別役割分担意識や、男女の経済力の格差、暴力容認の考えなど、DV を後押しする社会の構造があります。



暴力をふるったのは、オレを怒らせるようなことを
アイツがしたからだ！こっちが被害者だ！

それは、責任転嫁と暴力の正当化です！

暴力の原因は、夫婦や恋人など親密な関係ならば暴力は許される（あるいは必要である）という考え方にあります。暴力は相手を支配するための手段で、相手の人権を侵害する行為です。どのような関係であっても、暴力をふるってもよい相手はいません。



暴力をふるわれたのは、
あなたにも責任があるんじゃない？

暴力を容認しないで！

暴力をふるわれたほうにも原因があるという言葉や態度は、暴力を容認することになり、ますます被害者の孤独感・無力感を深めます。暴力はふるうほうが悪いのです。



暴力をふるわれても別れないのは、
それほど嫌ではないからでは？

逃げられないのは、被害者の問題ではなく、社会の問題です。

暴力によって支配され、相手を怒らせないことを優先してきた被害者は、暴力的環境から抜け出し、自立するために必要な力を奪われ続けています。暴力を根絶するためには、一人ひとりが相手も自分も大切に、尊重し合える関係を築いていく必要があります。

DV で悩んだり、身近な人から相談されたら、一人で悩まずお電話ください。

たいとうパープルほっとダイヤル

TEL 03-3847-3611 予約は不要です

月～土曜日 ※第1・第3・第5月曜日（祝日の場合は翌平日）を除く 午前9時～午後5時



たいとうのキラッとさん紹介

みやかわ くみこ
宮川 久美子さん 宮川刷毛ブラシ製作所・台東区優秀技能者

台東区元浅草にある刷毛とブラシのお店の三代目宮川さんは、手仕事に生きる数少ない女性の伝統工芸職人です。子供の頃から製作の現場を見て育ち、ご両親の代でこの技術をなくすわけにはいかないと家業を継ぐ決心をしました。ブラシの製作は、木地の穴あけから、毛の量を調整しながらの植毛、毛の長さを整える刈り込みなどの工程を手作業で行っています。丁寧に作られた手植えブラシは、毛が抜けづらく長持ちすると評判で、10年ぶりに買い替えに来店する人もいます。最近は、材料不足で仕入れが難しくなってきましたが、人との繋がりを大事にしてきたからこそ、昔ながらの材料を仕入れることができるとのこと。

宮川さんは伝統技法を用いたハート型のストラップブラシなど、新しい作品の考案にも挑戦。「この店のブラシがいいと言ってくれる人に、1日でも長く、1個でも多くブラシを届けたい」と笑顔で語ってくれました。



台東区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業紹介～平成29年度は8社を認定しました～

台東区では、平成28年度から仕事と生活を両立しながら、いきいきと働き続けられる職場の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスに取り組む中小企業等を「台東区ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認定し、その取組を応援しています。

子育て支援・働きやすい職場づくり・介護支援の3つの分野で認定を行っています。



詳しくはホームページ

(認定番号取得順)

認定企業名	認定分野
株式会社コマキ楽器	子育て支援
育栄建設株式会社	働きやすい職場づくり
株式会社 ビジネス情報テクニカルシステムズ	子育て支援・働きやすい職場づくり・ 介護支援
アミエージェンシー 社会保険労務士事務所	働きやすい職場づくり
株式会社日本システムブレーンズ	働きやすい職場づくり
株式会社エス・ティー・シー	働きやすい職場づくり
株式会社共同紙販ホールディングス	子育て支援・働きやすい職場づくり・ 介護支援
ライトフル株式会社	子育て支援・働きやすい職場づくり

台東区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業

検索

編集・発行：台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」



男女平等推進プラザ「はばたき21」は、誰もが自分らしく生きる男女平等社会を実現するための区民の拠点施設です。個人・グループの活動や交流に利用できる活動交流コーナー、男女平等に関する図書を貸出ししている情報コーナー、研修会・学習会・講演会等に利用できる企画室（予約制・有料）などがあります。ぜひご利用ください。

場 所 台東区西浅草3-25-16
(台東区生涯学習センター4階)

電 話 03-5246-5816
※日曜・休館日以外の9時～17時

開館時間 9時～22時

休 館 日 第1・第3・第5月曜日
(祝日にあたる場合はその翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

ホームページ

はばたき21

検索

